

サロベツ・エコモー・プロジェクトについて



サロベツ・エコモー・プロジェクト窓口
(サロベツ湿原センター内)

<http://sarobetsu.or.jp/ecom/>

TEL 0162-82-3232 FAX 0162-82-1009

活動はウェブサイトの専用フォームから登録いただくが、
登録シートをダウンロードしてメール・FAXにて受け付けております。
サイトでは過去の活動報告やお知らせを掲載しております。

自然再生に関する情報



環境省 生物多様性センター
サロベツ自然再生事業

<http://www.biodic.go.jp/sarobetsu/index.html>

このパンフレットに関するお問い合わせ

上サロベツ自然再生協議会 運営事務局 (豊富町役場内)

TEL 0162-82-1001 FAX 0162-82-2806

特定非営利活動法人 サロベツ・エコ・ネットワーク

豊富町 / 環境省稚内自然保護官事務所

北海道開発局稚内開発建設部 / 北海道森林管理局宗谷森林管理署 / 北海道宗谷総合振興局

[発行]

2019年3月印刷 環境省北海道地方環境事務所



この印刷物には環境に配慮した
植物油インキを使用しています。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



第3期

上サロベツ 自然再生 普及行動計画

平成30年6月

上サロベツ自然再生協議会再生普及部会

エコモー☆サポーター





はじめに

サロベツ湿原は、日本の代表的な泥炭湿原のひとつです。かつては、南北 27km、東西 8km、面積 14,000ha にも及び、釧路泥炭地や石狩泥炭地に次ぐ泥炭湿原でした。戦後農地化が進み、湿原は 6,700ha にまで減少しましたが、現在でも釧路湿原や別寒辺牛湿原に次ぐ国内第 3 位の面積です。また、高層湿原としては日本最大規模を誇ります。マガンやオオヒシクイをはじめ多くの渡り鳥が飛来する貴重な湿原で、ラムサール条約に登録されるなど国際的にも価値が高い湿原です。

豊富町の歴史は、兜沼地区に明治 36 年（1903 年）に岐阜団体が入植し、サロベツ原野の開拓を始めたのが始まりです。開拓から 100 年あまり、先人たちは、寒い冬や春の雪解けによる河川の氾濫など、厳しい自然と闘ってきました。その一方で、サロベツ湿原の広大な景観や、湿原に春から秋にかけて数多く咲く花々、訪れる渡り鳥たちを大切に見守り、慈しみ育ててきたふるさとでもありました。

昭和 40 年以降、本格的な開拓が進みサロベツ湿原は急速に減少しましたが、一方で、貴重な湿原を守るべきだという声の広がり、昭和 49 年に利尻礼文サロベツ国立公園に指定されました。国立公園に指定され、保護が図られることになったサロベツ湿原ですが、それまでに行われた放水路掘削や河川改修などの影響は大きく、指定後も湿原の乾燥化が進み、草花が咲き誇った高層湿原では、ササ群落が浸食して可憐な花が見られなくなるなどの環境の変化が進みました。

平成 17 年（2005 年）、このような状況にある上サロベツ湿原を、行政や地域が一丸となって保全再生していくために、「上サロベツ自然再生協議会」が立ち上がりました。本協議会の特徴は、この地域に根づいて暮らしを営んできた農家の方々も「湿原と共生する農業の振興」という観点で積極的に参加していることです。サロベツでは残された湿原の保全のため、農家の方々が 25ha にも及ぶ農地を提供し緩衝帯が設けられました。

さらに、サロベツに関わるすべての人によって湿原と共生する地域づくりを図ろうという「サロベツ・エコモー・プロジェクト」の取組により、幅広い方々と協働してきました。このような地域への思いと、行政による自然再生事業を一对の両輪として、この 10 年あまりの間、自然再生に取り組んできたところです。

今回改定する普及行動計画では、これまで 10 年あまりの活動を踏まえ、今後の普及活動の新しい方向性を定めるものです。

- 1 表紙
- 2 はじめに
- 4 これまでの歩み
- 6 第3期普及行動計画について
- 8 サロベツ・エコモー・プロジェクト
- 10 エコモー☆サポーター
- 11 評価・見直しの仕組み、様々な人や団体との連携
- 12 お問い合わせ・連絡先

これまでの歩み



平成 17 年 1 月「上サロベツ自然再生協議会」が設立されました。

主な自然再生事業は、行政機関による保全対策事業が中心ですが、自然再生を円滑に進めるには、地域をはじめとする多くの方の理解と協力が必要という考えから、協議会の中に「再生普及部会」が設置されました。

再生普及部会では、「サロベツ湿原の適正な保全と利用推進並びに自然再生を活用した環境教育、市民参加、情報の発信及び提供等に関する事項」について協議すると定められています。



第1期普及活動（平成19年～平成24年）

- ・上サロベツの自然再生にかかわる活動を「サロベツ・エコモー・プロジェクト」と位置づける。
- ・「湿原の再生」、「農業の振興」、「地域づくり」のために必要な住民参加と環境教育を推進する。
- ・プロジェクトの推進者は、地域の有志。自発的に取り組むことを期待し、プロジェクトの手がかりとして「サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動」を提示。
- ・普及活動支援ワーキンググループを設置し、個々のプロジェクトの活動を支援する。

普及行動計画の役割

「活動支援」

地域主体の活動を支援

「継続支援」

活動の継続を支援

「連携支援」

活動する団体・人をつなげることを支援



第2期普及活動（平成25年～平成29年）

- ・プロジェクト実施者を「エコモー☆メンバー」という。
- ・普及行動計画の3つの役割を提示

自然再生を伝える 人や団体のつながりをつくる 地域への思いを育てる

- ・普及活動支援ワーキンググループを発展解消し、「エコモー☆サポーター」を設置
- ・活動の振り返り方法として、PDCA 手法を導入



活動のマスコット
エコも〜太くん

- H15 2003 1.1 ・自然再生推進法制定
- H17 2005 1.19 ・上サロベツ自然再生協議会設立
- H18 2006 2.19 ・第1回再生普及部会開催
・上サロベツ自然再生全体構想の策定
- H19 2007 5.17 ・上サロベツ自然再生普及行動計画の策定
8.1 ・普及活動ワーキンググループ活動開始
- H20 2008 4.1 ・サロベツ・エコモー・プロジェクトの開始
- H21 2009 3.7 ・研修報告会
→ 以降「エコモー☆交流会」として年1回開催
- H22 2010 7.25 ・第1回エコモー☆パーク開催
- H24 2012 6.21 ・第2期上サロベツ自然再生普及行動計画の策定
・エコモー☆サポーター活動開始
→ 普及活動WGの発展解消
10.20 ・第1回エコモーDAY開催
→ 以降、毎年秋に開催
- H29 2017 3.9 ・第17回再生普及部会開催
→ エコモー☆サポーター会議において
第2期上サロベツ普及行動計画の見直し開始を承認
- H30 2018 6.16 ・第3期上サロベツ自然再生普及行動計画策定

第3期普及行動計画について

自然再生を普及していくことは、上サロベツ自然再生を進めていく上でとても大切です。再生普及部会では「サロベツ湿原の適正な保全の推進並びに自然再生を活用した環境教育、市民参加、情報の発信及び提供」を担当してきました。普及活動を進めるにあたって基本的な方針を定めたものが、自然再生普及行動計画です。

上サロベツ自然再生は、「上サロベツ湿原の自然再生」という目的に向かって取り組まれています。そのための「湿原の自然再生」「農業の振興」「地域づくり」の3つ目標を定めています。

第3期再生普及行動計画では、これまでの活動を踏まえつつ、誰もが同じ目標をイメージし共有できるよう、わかりやすくシンプルな目標設定とします。

なお、本計画では、「上サロベツ湿原」ではなく、あえて「サロベツ」としました。上サロベツ自然再生協議会が自然再生の対象としている地域は、「豊富町内の国立公園であるサロベツ湿原」ですが、多くの人に好きになってもらうのは、上サロベツ湿原だけに限らず、サロベツ全体でも構いません。サロベツには、湿原以外にも、炭鉱の歴史や温泉、周氷河地形などたくさんの魅力があふれています。湿原に限定しない方が、より多くの魅力を発信し、多くの人にサロベツのファンになってもらうことができるでしょう。



サロベツ
サブレンジャー
による木道ガイド

目標 1

サロベツを 好きな人を 増やします

一人一人がサロベツを好きになり、その人がサロベツへの思いを重ね、また新たに他の人にも伝えることを繰り返すことで、サロベツファンが増えていくことでしょう。その積み重ねが、サロベツを次の世代に伝える大きな力になるに違いありません。

目標 2

サロベツを 次の世代に 伝えます



豊富中学校の
総合学習の様子

サロベツを次の世代に伝えるということの中には、サロベツの良かった風景が昔話にならないように自然を保全・再生することや、祖父母やさらにそのご先祖様がサロベツで培ってきた湿原との共生の歴史や思いを伝えていくことも含まれています。自然再生というとむずかしく考えがちになりますが、サロベツを次の世代に伝えるため、一人一人ができることに取り組んでいけるようになること、それが普及活動における自然再生活動そのものです。

～サロベツを好きになるための活動～

サロベツ・エコモー・プロジェクト

サロベツに関わるすべての人が、自然再生普及活動を担うことを目指し、「サロベツ・エコモー・プロジェクト」を普及活動の中心として位置づけます。

「エコモー」とは、「自然」と「農業」との共生を目指して、エコ (ecology) と牛の鳴き声 (Moo) をあわせたサロベツにおける造語です。

上サロベツ自然再生と、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、サロベツを思う人をつなげる活動を核にした「サロベツを好きになるための活動」と定義します。



サロベツに出会う

サロベツ湿原を全く知らない人、サロベツという名前を知っていても行ったことがない人たちにまずはサロベツ湿原のことを知ってもらい、興味を持ち、行ってみようと思うことから始まります。



サロベツを理解する

好きになったことへの理解を深めていけば、そこにある問題にも気がつくことでしょう。サロベツ湿原への理解を深めてもらうことが、自然再生への理解にもつながってきます。



サロベツを体感する

サロベツ湿原を訪れ、体感することはサロベツへの思いを育む大きなきっかけとなります。サロベツに興味を持った人に好きになってもらいたい。そのためには、たっぷり体感し、楽しんでもらうことが大切です。



サロベツのために行動する

サロベツを好きになり、サロベツのために何かできることはないか、そんな思いが、サロベツ湿原の再生への行動につながっていきます。

活動の 4つの カテゴリー

エコモー・プロジェクトをカテゴリー分けすることで、サロベツ自然再生において何を目標とした活動かが明確になりますので、次にどんな活動に参加すれば良いかということが一目でわかるようになります。このことは、エコモー☆サポータが個々のエコモー・プロジェクトを支援する上でも、自信をもって取り組みます。

なお、エコモー・プロジェクトのカテゴリー分けは、自然再生への寄与度を示すものではありません。それぞれのカテゴリーは、それぞれに大切な役割を持っています。あるひとつのプロジェクトにおいて、複数の視点から見ることができ、その目的によりカテゴリーが変わったり、複数にまたがったりすることも考えられます。厳密に分類する必要はありません。



豊富中学校出前講座



サロベツ人気UP 作戦!
春の自然観察会 2018



ゴミのポイ捨て防止啓発活動



なまら!!サロベツ∞クラブ



稚咲内町有砂丘林再生プロジェクト



サロベツ・エコモー Day



羊毛フェルト制作



親子でサロベツの自然を
知ろう!! 楽しもう!

このほか、たくさんの活動をエコモーHPにて公開中!

エコモープロジェクト

検索

エコモースター



エコモースターとは、自然再生事業実施者や地域活動のサポーター役となる行政機関や NPO、一緒に自然再生を進めていこうという個人から構成されます。エコモースターは3つの役割があります。

上サロベツ自然再生に対する人々の理解を深める

サロベツを好きな人たちを増やしていくにあたって、上サロベツ自然再生のことを正しく伝えていくことは、とても大切なことです。これまでもエコモースター Day を通じて自然再生を伝えることに努めてきました。これからも自然再生を伝えていくことは、大きな役割です。

自然再生に取り組む人や団体をつなげる

平成 20 年よりエコモースターメンバー同士の交流を図るために、エコモースター交流会をスタートさせました。交流会ではお互いの活動を知ることができ、理解を深め合ってきました。エコモースター交流会でつながりをもったことがきっかけで、イベント開催に協力してもらおうというような交流も生まれています。

エコモースタープロジェクトの推進を図る

エコモースターサポーターの母体となる自然再生協議会及び再生普及部会は、協議や連絡調整を行う機関であり、上記の活動は、厳密にはエコモースターサポーターの活動というよりも、エコモースターサポーター会議を通じて協議・調整したことに対して、各構成員ができる範囲で協力し合い、全体でひとつの動きをつくってきました。

第 3 期普及行動計画においても、これまで同様にエコモースターサポーターを核として、個々の構成員の協力によって進めていくこととします。

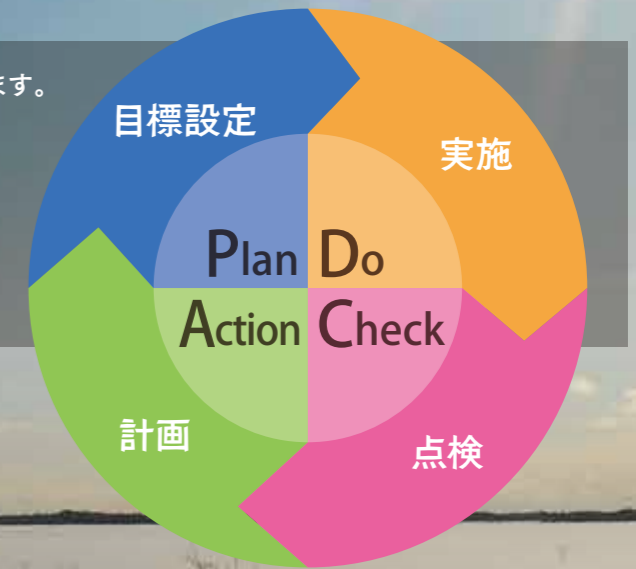
評価・見直しの仕組み・様々な連携

自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み

自然再生事業の特徴は、順応的管理です。これは直接的な再生事業に限定されるものではなく、普及活動においても順応的に取り組んでいくことはとても大切なことです。

順応的管理の手順

- ① 自然再生の目的を踏まえ、具体的な目標を定めます。
- ② 計画通りに実施します。
- ③ 計画通りに実施できたか、目標どおりの成果が得られたかを点検します。
- ④ 点検結果に基づき、次の計画を立てます。



様々な人や団体との連携

今回目標として掲げた「サロベツを好きな人を増やす」「サロベツを次の世代に伝える」ということは、自然再生に限らず、「まちづくり」、「観光」、「社会教育」などの分野でも同じことがいえます。新しいエコモースターメンバーの参加により活動の幅が広がり、より多くの人たちの参加が得られるようになれば、自然再生のための活動をより一層魅力的に展開することが可能になり、大きな効果を得ることができるでしょう。エコモースタープロジェクトは、自然再生を軸とした活動を展開し、他の様々な分野でサロベツに対する思いを共有できる人たちと協力・連携し合いながら進めます。



地域の連携で行われる海岸清掃